

2018年5月18日

各位

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社

グローバル海運企業初となるグリーンボンド 「日本郵船グリーンボンド」の引受けについて

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社（取締役社長 荒木 三郎、以下当社）は、このたび、日本郵船株式会社（以下日本郵船）がグローバル海運企業として初めて発行するグリーンボンド⁽¹⁾「日本郵船グリーンボンド」（5年債 100億円）の引受けにおいて主幹事及び Green Bond Structuring Agent⁽²⁾を務め、本日、同グリーンボンドの条件が決定されましたことをお知らせします。

日本郵船は、環境改善効果のある船舶のハード面・ソフト面の技術開発を進めており、「環境対応船の技術ロードマップ」を策定しています。日本郵船グリーンボンドにより調達された資金は全額を上記の環境対応船の技術ロードマップで予定する投資（液化天然ガス（LNG）燃料船、LNG 燃料供給船、バラスト水処理装置、SOx（硫黄酸化物）スクラバー等）に充当される見込みです。

また、同社は新中期経営計画“Staying Ahead 2022 with Digitalization and Green”において ESG（環境・社会・ガバナンス）の観点を取り込み、企業価値と社会価値の持続的な発展と成長を牽引する目標を掲げており、グリーンボンド発行を通じて、資金調達リソースの拡大を図るとともに、同社の環境投資への積極的な取り組みを幅広いステークホルダーの皆さまに認知いただくことを企図しています。

当社は、金融機関として果たすべき社会的使命を自覚し、持続可能な社会の実現に貢献するための取組みを積極的に推進しており、環境分野においてもグリーンボンドの引受けをはじめ、炭素クレジットやクリーンエネルギービジネスにおけるコンサルティングサービスの提供、社内の省エネ・省資源施策等を実施しています。

2006年に国連責任投資原則(PRI: Principles for Responsible Investment)が制定されて以来、世界の ESG 投資⁽³⁾が拡大していることを受けて、資金使途を環境対策事業とするグリーンボンドや社会貢献事業とするソーシャルボンド、両方の特性を有するサステナビリティボンド等の発行は増加傾向にあります。引き続き、当社は、企業・経済の成長と社会・環境との両立の観点から、ESG をテーマとした債券の引受けを一層推進するとともに、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

(日本郵船グリーンボンドの概要)

債	券	名	:	日本郵船株式会社第 40 回無担保社債 (社債間限定同順位特約付)
取	得	格	付	: A (JCR)
年		限	:	5 年 (2023 年 5 月 24 日償還)
発	行	額	:	100 億円
利		率	:	0.290%/年
発	行	日	:	2018 年 5 月 24 日
主	幹	事	:	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券、野村証券
Green Bond Structuring Agent			:	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券

- (1) 環境事業に要する資金を調達するために発行する債券。日本郵船グリーンボンドは、国際資本市場協会 (International Capital Market Association : ICMA) が定義する「グリーンボンド」の特性に従った債券である旨、第三者機関による評価を取得している (第三者機関 : **Vigeo Eiris**)。また、環境省から「グリーンボンドガイドライン 2017 年版」への適合性認証を取得している。
- (2) グリーンボンドのフレームワークの策定及びセカンドオピニオン取得の助言等を通じて、グリーンボンドの発行支援を行う者。
- (3) ESG は、環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) の英語の頭文字を合わせた言葉であり、ESG 投資はこれらの要素に配慮している企業を重視・選別して行う投資のこと。